いわみざわ市

緑の相談コーナーだより

室内公園 色彩館 SHIKISAIKAN
岩見沢市志文町７９４
No.459
2023年　9月 1日発行

いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

ミソガワソウ

この夏、念願の礼文島トレッキングに出かけることができました。花の浮島は霧雨模様でしたが多くの花たちに出会えました。その中のひとつがミソガワソウです。ミソガワソウのミソガワは、長野県の味噌川に多く見られたことに由来しています。味噌川という川は現在なく、味噌川ダムとミソガワソウにその名が残るのみだそうです。日本の固有種で、北海道、本州、四国の亜高山帯の草地や渓流沿いなどに生え高さ 1m～ 1.5mで薄紫色の花を咲かせるシソ科の多年草です。基本の薄紫色から色変わりが多くみられ礼文島でもピンクの花や白花の群生も見ることができました。特に白花はシロバナエゾミソガワソウと呼ばれ、北海道に分布するものをエゾミソガワソウに分け、その白花品として記載されたようです。今はミソガワソウとエゾミソガワソウを区別しないのが一般的ですが、シロバナエゾミソガワソウの名はそのまま残っています。学名は「ネペタ　サブセッシリス」でガーデニングをやられている方は聞いたことがあるかもしれません。またネペタ　ブルードリームは紫色の花の選抜品種、ネペタ　ピンクドリームはピンクの花の選抜品種で、園芸店などで入手することができます。（いとう）

夏の異端児たち

夏の暑い日でも葉を茂らせ栄養を蓄える植物が多い中、この時期に落葉したり、地上部が消え去って地下でじっとしている異端児もいます。おっと失礼な表現で怒られますね。先月のお盆過ぎまで咲き誇っていたヒガンバナ属の夏水仙（リコリス　スクアミゲラ）は春から６月末まで水仙のような葉を茂らせていましたが、７月になると枯れてしまいます。やがて地下より花茎が伸び始め 50～60 センチほどになって、お盆のころピンクの花を咲かせます。そして９月にはそれも姿を消します。これとは別にジンチョウゲ属のナニワズという落葉樹は、葉をつけたまま越冬するので常緑樹かと錯覚しますが、春に香りの良い黄色い小さな花を咲かせます。しかし夏には葉を落とすのでナツボウズとも言われています。そして秋には再び芽吹き、雪の下で越冬します。ところで極め付けはスプリング・エフェメラルと呼ばれる福寿草、エゾノエンゴサク、キクザキイチゲ、ニリンソウなど早春に咲き誇る草花でしょうね。6 月には地上部が枯れ、先ほどの植物よりも長く地下でじっとしています。「標準」ばかり気にしている私たちに、何かを語っているのかもしれません。（かわはら）

バラのハダニ類

暑い日差しの中、慣れない暑さで庭に出る時間も少なかったままに９月です。バラもその間に乾燥状態になり葉を見ると小さな白い点が多くみられるようになっています。葉裏には極小な虫が動き回り、蜘蛛の巣状になっていたりしている表情を見つけたりしていると思われます。相談コーナーにもお問い合わせが数件有りました。この暑さで、バラにも夏バテ状態が起きたり、水切、黒点病、などが目立ちます。5 月～11 月迄様々な植物に起きる現象です。バラのハダニ類については植物の汁を吸う虫(クモの仲間)高温乾燥時に発生しやすく、多発すると多くの葉が被害を受けて植物が弱ります。ハダニは湿気が苦手なので葉裏に霧吹きで頻繁に水をかけ乾燥を回避できるようにする事です。薬剤処理をするときはハダニ専用の薬剤で規定の倍率守り、全体に散布するようにしましょう。(たかはし)

＊「今月の便り」　次ページへつづく⇒

ナスの木と言うけど木ですか

ナスの原産地はインドで、高温多湿を好み、日本の夏にあった育てやすい野菜です。暖かい環境で苗を作りをして、定植後には肥料を切らさないようにすることで、長い間たくさん収穫することができます（昔からの言い伝えで、ナスの花は一つの無駄がない）ナスの光沢ある果皮の色は、ナスニンと呼ばれるアントシアニン系色素であり、ポリフェノールの一種で、高血圧や動脈硬化を予防する効果が期待できると言われています。同じナス科のトマトに追肥を重ねると木や葉ばかり大きくなり実が付きにくくなりますが、ナスは肥料食いと覚えておいたほうがいいようです。今年、私は３月 30 日に室内でポットに種を植え６月半ばで収穫を始めています。当然ですがマルチにして５月末まではトンネルをかけて温度管理、肥料には最善を尽くしていました。今最盛期ですがナスの木は切り戻しが必要です。切り戻しにより、子枝、孫枝、彦枝に次から次と実をつけさせることが肝要です。ナスの木は、日本では気温の関係で成長を続けることができず、秋には枯れてしまうので、１年草扱いですが、実は多年草で、ナスが育つために必要な気温を確保することが出来れば、何年も育てることが可能な植物です。（ながやす）

植物と虫との生活

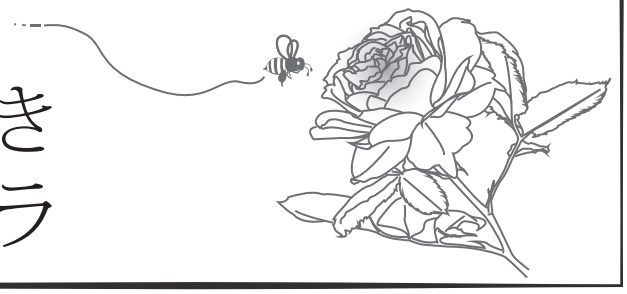
暑い季節から秋にかけて、植物でいっぱいの空間の朝はなんとも心地よい空気で満たされます。まるで森の中にいるような空気。庭をそんな植物からもらえる癒しの空間にできれば最高です。コツはとにかく暑い夏に花壇の土をむき出しにしない事。そうすれば植物の下で虫達が熱い夏もせっせとふかふかの土を作ってくれます。背の低い園芸植物がなければ勝手に生えるカタカタバミなどの背の低いタイプの雑草で草マルチをしても良いでしょう。地面から10センチぐらいをもしゃもしゃさせていると良いようです。スギナやドクダミなどは引っこ抜いてください。うまくいっていると湿気の多い朝などに癒される森の中のような土の香りがするわけです。無農薬栽培にはそんな楽しみもあります。草を見たら親の仇のように抜くとか、虫を見つけたら問答無用で殺虫剤をかけるとか、そういう園芸は自然の恵みをもらえなくてちょっと残念な気がします。（きのした）

緑の相談コーナー　Ｑ＆Ａ

前号より、庭菜園に関する「Ｑ＆Ａ」を連載で紹介いたします。

Ｑ．雨が降るとトマトが割れるのはなぜ？　また、尻腐れはなぜ？
Ａ．ネットや量販店で、雨に当たるとトマトが割れるのを防ぐため雨よけ屋根を架けると良いと言われ、屋根だけの簡易ハウスが販売されているが、効果はゼロとは言わないが、あまり効果はないと思います。雨の後にトマトの割れる大きな原因は、トマトの育成温度は２５度くらいで、３０度以上の日が続くと高温障害でヒビが入りやすくなります。また、大量の雨が降ると、必要以上に根から水分を取り、トマト内に大量の水分を吸収して実を大きくしますが、この時トマトを包む皮の成長が追い付かないため皮が破れてしまいます。根からの水分吸収量に問題があると思います。
　また、トマトの尻腐れの原因は、カルシュウム不足・水分不足・窒素過多です。元肥の時点でカルシュウムの入った肥料を使用する（追肥でも可）。トマトに水を与えると甘味が少なくなるということで、殆どの人が、水を最小限度にしているが、植物の生育時にの水か必要です。与えすぎに注意して水を与えてください。水が多いと言うことは、根が窒息状態になるということです。窒素肥料を少なめに与えましょう。窒素肥料が多すぎるとトマトの木は太く背丈は高く、木に栄養が傾き実はストレスにより尻腐れになりやすいです。

ひとつき ひとバラ



文：曽根　浩太
（いわみざわ公園バラ園）

第百五回

原種

テリハノイバラ（ロサ ルキアエ）

R.luciae

日本原産
分布：本州、四国、九州、沖縄

ハーディネスゾーン：Z5
一季咲き

今年は北海道でも長く、暑さが厳しい夏でしたね。夏の時期はバラにとっても苦しい期間でしたが、9 月下旬ごろからは香りも色味もグッと深くなる秋バラの時期になります。もうしばらくの暑さ、耐え抜いていきましょう。

秋バラの素晴らしさは言うまでもありませんが、秋はローズヒップを楽しめる時期でもあります。ローズヒップはバラの実のことで、花が終わった後に花がらをつけておくことで秋には色づいて楽しませてくれます。今回はローズヒップを多くつけるバラから、原種のテリハノイバラを紹介したいと思います。

テリハノイバラは、白一重の花を咲かせるバラです。ノイバラと比べると一つの花枝につく花の数は少ないですが、少し大きい花を咲かせます。花には芳香があり、優しい香りを嗅ぐことができます。枝はしなやかで良く伸び、6m 程度までになるので花壇に植える際には注意が必要です。原種だけあって半日陰や水はけの悪い場所でも良く生育してくれる強健さを持っており、かつ耐寒性、耐病性も抜群です。
一般的にはつるバラとして扱われるので、誘引して見せることになると思います。テリハノイバラ（ 照葉野茨 ）の名前の通り、葉には光沢があり、葉の裏表どちらにも毛がありません。日本のバラの台木でよく使われているノイバラと似ていますが、ノイバラは葉には光沢が無く、裏面に細かい毛が生えていますので、この違いが一番わかりやすい違いかと思います。

ランブラー系のつるバラの元になっている原種でもあり、開花枝には翌年あまり花がつかず、前年に伸びたシュートに花がつきます。誘引もランブラーと同様、約 30 度で緩く誘引すると花付きがよくなります。

花言葉は「素朴な愛」で、派手さが無いテリハノイバラの花には合っている言葉だなと思います。

当園ではカフェローズの柵の周りや、オールドローズの小径の木柵に植栽されており、植栽後 3 年が経ちましたが、今年本領を発揮してかなり花が咲き、枝を伸ばしてくれました。

どちらも剣先スコップが入らないほどがちがちに固まった土なのですが、そんな場所でも元気に生育しております。

秋遅くには、たくさんの実が色づいて例年とはまた違ったオールドローズの小径になると思いますので、是非見に来ていただければなと思います。

色かたち良く、濃厚な香りの秋バラをお楽しみください

いわみざわ ローズフェスタ2023
IWAMIZAWA Rose Festa

9/23 SAT ▶ 10/9 MON

秋

今月の市民園芸講座のご案内

●9月10日（日） 13:00~15:00
飾ってたのしい植物画～バラ園の樹や植物を描こう
料金：材料代 100円　定員：10名　講師：木下 京子さん　フラワーマスター

●9月18日（月・祝） 13:00~15:00　**楽しいキノコの見分け方**
料金：無料　定員：40名　講師：伊藤 幸秀さん　日本自然保護協会

●9月23日（土） 10:00~12:00
ばらゼミ⑦　来年に向けての土壌改良と移植準備
料金：無料　定員：40名　講師：古舘 杏奈さん　ローズグロワー

●9月24日（日）・10月1日（日） 13:00~15:00
バラ管理スタッフのローズツアー・秋
料金：無料　定員：40名　講師：バラ園スタッフ

●9月30日（土） 13:00~15:00　**バラ園のバラを使ったアレンジメント**
材料費：2,000円　定員：20名
講師：大和田 由紀子さん　カンガルーファクトリー

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。
電話 :0126-25-6111　ホームページ :https://iwamizawa-park.com/
※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。
連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。
※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日３～４日位前までにお申込みをお願いいたします。
※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。

編集・発行　空知リゾートシティ株式会社（いわみざわ公園バラ園指定管理者）
お問合わせ　いわみざわ公園バラ園　室内公園「色彩館」 0126-25-6111